

出展作家インタビュー

出展作家の方々にも、現在のご活動についてお話を伺いました。



第3期 出展作家

磯邊 美香

M i k a I s o b e

《a Pink Screen》2014年、福岡PARCOでの空間演出



ジャンルの垣根を越えてご活躍されている磯邊さん。ご活動のルーツをさかのぼると学生企画展がありました。



—学生時代はどのように過ごされたのですか？

学生時代はギャラリーやテレビ局に勤めながら作品制作と展示ばかりしていました。幸いなことに多数のギャラリーにお声がけいただいたり、「GEISAI」というアート展示会でMTVスカウト審査賞を受賞させていただいたり。将来のこととかちゃんと考えてなくて、結構ふわっと生きていましたが(笑)。制作と展示だけは夢中で…。

—制作と展示に集中して取り組まれ、受賞もされたとなると、美大生としてかなり充実した過ごし方だったのではないのでしょうか。大学院を修了されたからはどのようなことをされていたのですか？

一度アート界から離れたくなり、ご縁があって某

ベンチャー企業に入社しました。今思えば人生の転機だったと思います。その会社はIT系のコンサルティング業務をメインでやっていたのですが、半年くらい経って辞めようかなと思っていたところに、当時の社長が新規事業を立ち上げると言って今の事業の前身であるファッション系SNSやセレクトショップの運営をやらせていただくことに。社長の無茶ぶりに応えるのが面白すぎて色々なことをやっているうちに、現在の主軸である商品企画&デザインの仕事もやるようになりました。その後、独立させていただくことになり今に至ります。

—アートから離れたくて入った会社で再びアート

の世界に踏み込むことになったとは、運命のようなものを感じますね。学生企画展で印象に残っていることはありますか？

相模原市民ギャラリーでの初展示は、当時学生だった私にとっては一番大規模な展示だったのではないのでしょうか。物理的な空間の広さはもちろん、たくさんの学生スタッフさんが運営や準備をしてくれたり、設営当日、職人さんが大型の機械で展示してくれたり、たくさんの人の力を借りて展示できているんだと強く感じました。

展示を通じて取材を受けたり、関連イベントの企画なども行ったりして、若いうちに様々な経験ができたことは本当に貴重だと思っています。私がジャンルや媒体に縛られず横断的に活動できる源泉はここにあるのかもしれない。

—色々な発見のある展覧会だったのですね。

もともとメディアや分野を限定するのはあまり得意ではなく、創造に対するコアな部分を色々なものに落としていく過程が好きなのもあったと思います。それが新しいジャンルのことだと、興味と探究心の方が勝って、その根源とか歴史的背景とかを調べるところから楽しめるので、やらせていただけることは何でもチャレンジしてみたいと思っています。

—活動分野を限定しないからこそ、アーティスト・ディレクター・経営者という複数の肩書きでのお仕事が可能なののでしょうか？

肩書きは周囲の人にわかりやすい記号みたいなものだと思っているのであまり意識していませんが、芸術も経営も、歴史的背景や落とし込む媒体は違うけれど、すごく似ている部分が本当にたくさんあると感じるので、どちらの仕事も楽しくやらせてもらっています。ただ創造「活動」をビジネスとの関わりありきで考えるとどうしても範囲が限られてきます。お金、時間、人など関わるものが多いほど、規模が大きいほど制限されることは増えますが、「無限の可能性があれば何でもできるのは当たり前」という前提で、制限がかかったその範囲のなかでいかに良いものにしていくのか、最良



《Vanity#1-3》2006年[第3期出展作品]

ものをいかに生み出すかが重要なのではないかなと。

—アートとビジネスの両方に関わっていらっしゃる磯邊さんから見て、現代社会におけるアートやデザインについて思うことはありますか？

社会に出てさらに強く感じるようになりました。アートやデザインは日常に溶け込みすぎて大多数の人は意識できていないことが多いように思います。でも、どんなことをやるにせよアートやデザインが生み出すものはプロジェクトが動き出すきっかけになりやすいし、デザインやアートは広義の社会において潤滑油のような存在にもなればいいと思います。自分はそういった意識を持ちながら、多方面な活動をする中で社会に貢献できると自負していますし、社会がそういう存在を許してくれる時代になってきたのではないかなと思います。

—これからのご活動がとても楽しみです。最後に、今後の展望について教えてください。

ものづくりへの探究心と創造力は、人間が人間たる根源だと思うのです。時代や表現方法、ジャンルは違っても、これからも誰かしら一人でも多くの方の人生が豊かになるような活動・表現ができるよう、さらに勉強を重ねて精進していきたいと思っています。

プロフィール

株式会社M-Ink(ミンク)代表取締役社長/デザイナー/アーティスト。
福岡県出身。多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了。大学在学中より「Pink」をテーマに写真・オブジェ・インスタレーションなど様々な媒体を駆使して活動をスタート。商品企画&デザイン・スペースデザイン・イベントカフェ企画運営など幅広く活動。「Lolli by PM」「Pinkymika」といったブランドのディレクターとしても活躍しており、他分野とのコラボレーションなど多数実施。2016年頃より伝統工芸「久留米餅」を使った商品企画など地元福岡との取り組みも積極的に行う。



綾杉酒造 Pinkymikaデザインラベル×久留米餅ネクタイLimited Edition

(26ページ、左から)《Vanity#4~そして繰り返す~》2007年/《TOGE room》2008年/ COREDO日本橋での空間演出、2009年/《Girls in the Metaplasia Mountain (Pinkymika)》2013年、福岡PARCOでのショーウィンドウデザイン



ジャンルや媒体に縛られず横断的に活動できる源泉はここにあるのかもしれない